



後餘花千二百句

此 齣

白雲江



かろくし
第廿九句竟
真の報句なり
りふけし海
つあしな今
いふふし
右今序の初
合歡六堂
ひまじ
の
海
と

比も色子ぶもこれ風の
合歡一筋玉おん落 沾
密解の晝と海 くらしと露沾
尺ハ吹の登一まともる午寂
此 齣 斗 け 糖 一 度 け 葉 水
鏡 の さ や ら 中 へ ともらさ 白雲
長久の姓口とろの月れ友 風紫
かつく見え細掛しとく不 漣純
衣ら火姐板もあひかすや 冒貴

濁家とれ後
て地とら

入狭山 但馬

結繩ノヨ
文字の跡

常然能成
集竟其
の百有餘
冊は任者

くふも城^キ庭の通第おふ 琴風

お生れ筆小控のつとて 雪凍

人^ノを^スる^ルれ^ハ山椒^ノ如^ク也^ト 岩蔭

濁さその峰へ眠さる太祝^ノ 眉丘

筆とよすきそく中川へ来る 來枝

裾へよい入るさあ山此雲とあり 楓子

金^{ホトキ}とくやと葉^ノり^ハ 畝河^ノ星^ノ波^ノ星

腰^ノら^ハい^ハう^ラり^ハ縄^ノ踏^ノ小^ノ雲 和推

月も周防のすみよりよ沈 佳風

義よあ^ハく^ハ物^ノき^ハ自^ノと^ハい^ハく^ハ可^ハ石 礼紫

笑ひき^ハひ^ハく^ハ飽^ノ厨^ノり^ハ 虎銀

小了筒^ノ痰^ノと^ハく^ハく^ハ人の^ノれ^ハ心^ノ 羽州秋田 五葉

こ^ハく^ハい^ハあ^ハき^ハ柳^ノと^ハき^ハよ^ハ感^ノ念^ノ 紫燕

皺^ノ面^ノハ^ハ莫^ノ勒^ノす^ハる^ハ希^ノれ^ハ長^ノ乃^ノ宵^ノ 栴子

却^ハく^ハ道^ノく^ハ九^ノ折^ノな^ハ 沾化

こ^ハく^ハ衣^ノ紫^ノ鼻^ノを^ハは^ハく^ハく^ハ唐^ノ衣^ノ 一雲

き^ハい^ハせい^ハ婦^ノ 此^ノ油^ノよ^ハく^ハあり 一和

細^ノ杖^ノの^ハこ^ハい^ハむ^ハ程^ノこ^ハ焚^ノた^ハむ^ハら^ハめ 松巴

管^ノ地^ノよ^ハく^ハく^ハと^ハ清^ノさ^ハひ^ハつ^ハと^ハと^ハ 徳守

埋^ハる^ハも^ハい^ハろ^ハは^ハの^ハ里^ノく^ハ土^ノよ^ハと^ハる^ハ 半露

ゆめハ申あ^ハく^ハこ
あめむりりお
い^ハお^ハり^ハま^ハり^ハか
一カ葉
源中^ノを^ハき^ハた^ハに
あ^ハれ^ハ又^ハも^ハる^ハか
る^ハか

撥も奥の糸響女は多声 秋常

海濱のまこと 并ハ非非翠々歎かるる也 青莪

は川と国を心 空夜志ほりふ波不染川 東水

人のいそがハ伊 執蓋よ君ハさうとやさんさ等 枯枝

堀の河 執蓋 行列の 西風の立具水とつける 沾石

人男れ身い端がー風は月 碧谷

昇屋以後の戸やうきさゆ家 柳江

籠のまう 夢る淋れ身とがーかちと押や 文魚

針筒の形 海英縮よ袖をの干加減 海宇

針筒ハ子達 垂ととくさ女川 隣留

起るいりんせ波をの鼓と 秋を

志のうへを推 赤魚よとこやら是れ魚のうき 百里

とみ成まるとれと湯より合える 言水

踏縁此比花といふもあこ糸 沾露

同屋乃不らり鏡を煙らる 沾岳

十六夜や沙汰ーと新も老がけ 沾糸

と糸く鐘も軽梅も、音釣玄

さあうら身よ入るさ角大師 文東

古歌のわさく 和風

美垣乃ちハ白くく花を抱如蒿

所ハくまを花 年竟裸身 形をりあかり

あま時の中ハ 新やとりつ

いさき 炬屋

獨活ノ枝々二挺目ヲ備 朝松
ニララシガ
お毛りかつらも東風よりひびく鏡葉基

あつこのこ
ほほほ

こつこつ此湯く密く如 離露法
優曇華ハ五風呂梅ノ香也如也 垂月

新役の仕
あつりりり

あり月より新役志仕 湖十
糸合を練りぬる田嶋も 沾宇

ほほほ
こも新役
あつりりり
あつりりり

古具足も跡不子示於紫 雨橋
今春んといひく嚏枇把志也 仙里

七里此擲よ素纏目せとき 羽光

夏ハ川月ノ矣見乃雲もす林車

あつりり乃獲りりりりか不 凍雲

冬州吉田

水筋如蟻の道々草如上 望月

筑波と朝よ侍者ハ道ハ次 如湯

我宿のをくひりり片思 如真

あつりりききりりりりり 朝叟

小社も十万石をけりりりり 車盛

田舎芝居改を今年如録 安士

八徳の海もえりりりりり 栢十

あつりりりりりりりりり 序令

あつりりりりりりりりり 晋如

侍者
あつりりりりり

懐地のや
あつりりりりり
あつりりりりり

あつりりりりり
あつりりりりり

衆方規矩とく星とくく 柯木
 未の君へ心よき風後竹宇
 子貴七道くわゆる臨 竹翁 在川
 之の之物よてくく心よき上ハ 楊舎
 鼻とくくちかむ夕くき灰 李蹊
 貞清國時あつて月く換もを 在表
 露中り欠も限く此山等 也長
 入懐よなきい盡血神の花竹苞
 艶とけり依乃室くく袖 仙宇
 心きおれくくくく又歌字 沾山

母の母の中よ
 母よれまの
 るとくよ

ほやおまか
 ともくもみ
 有はく急
 けりし一
 乳肉のき
 可くれりし

妙音院 保元
 大政大臣師長
 琵琶の伝徳
 三絲よくく
 しれを

女の理屈蒼りく 只尺
 百れも妙音院のひつと 古建
 袖乃良面も茶撰中一 我兄
 祢言言哉隔年神よおけ 子江
 じよからきくくくく 子象
 先生も苦菜も能き目玉筋 皆可
 きふ資朝よ成る 式分ハ 負他
 客よりこ堀をたのめ 治竹
 梢中秋も船田の町並 柳等
 中啼ハ飛舞ふ筆と買よき古洲

檀風の徳よて
 にくへ

多列の原の母
下は内時宗
のちし

列子御風華

覃翁の駿乃石よさるりし
叙梁

せりぬり小濱此の文々々
千山

志波も小入る所の身を端
ぬ石

風御吹ぬ一日あまろく
蓮之

水と夕との頬を横よ
京 珍舎

子丑寅卯の影竹れみり書
水立

近はぬもく焦くさい
嶺舞蛟

檻干人よこへく光るら
宜雨

影くいらこぬ
滄と凡盆 沾枝

むさふ海画船も千
鶴より鋤鱗

虎杖二寸ぬむ所
雲 沾洲

くく 雲を
凡盆高を
内庭のりり
むさふ洋の
心しを
のち他なり

石山秋月

沾徳

臨馬もさぬ果一や山は月

眉をこくも能第新こや万旅

寒のぬ玻璃するを
秋文天 仙霜

苗もきくも今年ハ
玉君

らんよやくれ
雪き小度る
霧 氷巻

鈴布いせくすく
まいつく 参列吉田 角阿

よ作よこすからこれ乃
玉子 沾岩

十二つ人ち横
蘭片 沾翅

目たらののよ
目こらハ 沾の敷 菊畹

石山の秋
原氏宮を
よあり是なり
八百餘乃月ハ
平素り
のハ景を

都督府
流雲亭

麻キ登伽サウ
一ウミナリ

鯉一糸千里此のきむ 相州塚村 可水

鐘の声吹革荒磁とおうり 湖舟

瓦如吟味都督府よ入 瓢流

綿買よ厄云こをいさ枯り 同州名取 沾雪

君の蓋しよ喧嘩何らた免 油流

小さいと振ゆ人どう 蹄去

とまの王家此後 回川

山科よ日負も何り 子簾

半ぬ たよ 櫻殿の月 雨亭

鬢整れり後 神の家 仙其 拾意

日本一乃追 風ふも 炎 甲 徳舟

土場毎よ名人何り 花の声 立志

渡り扈從よ 殊 独活 吉田 弄影

入翹あらへ お 藩 国 曉井

以領の す 如 糸 を さ かり 子 魚

播お し 此 播 の お 物 二 王 よ 白雲

花を と す け い 塵 も 居 ら ぬ 沾 枝

鐘形をかむ る 人 よ い 何 そ く 琴風

坂を 苦 く せ ぬ 以 巴 者 門 中 堵 岩

忘ん り も 常 娥 も つ 建 新 也 巴 人

此流尾陰の
るとりおん
筋の各也

睡物の名

かたを又
のり 龍の
又字かきり
るをうりり
るをうりり
の山川のあき
ともたらしむ

丁銀もらふ秋の如く 沾為
壽命が城遠く 嶽 ^{ツニトル} 少ちたふ 苔峨
管布代名と いたすかきこり 孤竹 ^{羽州}
賀茂を又 渡らるゝあひ 沼指 沃雄
あつゝの 浪をこふまこり 負 沾徳
生かから 清なる 流るゝ木の下や 磐谷
うら山吹 春の 論語よき 古井
自 剃ちて 道き 支度 いたる 甘谷
馬刀を ちりや 牛乳子乃 賦家
捨和巾着 ちと 揺る 兼如 山 高寂

泊瀬も方と
方ぬらふり 本
かきり
いりもたふ
飛鳥園本
野明天皇
今の内宮

磗の廊へり 山を 清人 义魚
観音の 奥法 有へ 兼 いたる 沾洲
夏下 帯を 纏山 玉より 蓮之
方ぬらふり 本 深 ぬら 已に見る ぬら 沾山
いりもたふ 水 志つ 湯は 湯 湯子 命ふ 安士
子所 とも あり 湯 湯下 湯 湯 文東
去 若 あり 湯 湯 湯 湯 毛 湯 湯 柯木
づか 礼と 石よ 照る 月 湯 湯 負 佐
船ハ 草 湯 湯 湯 湯 湯 湯 湯 湯 海宇
宗 湯 湯 湯 湯 湯 湯 湯 湯 釵 梁

住吉市に

三 住吉市に

舟雀

大谷に水鏡を照らす

竹の節の酒の香る

引よそくたへよする釜山海

朝鮮地

許りの逢ふと上は傷多

杉檻の板のすくたは

紫屋

つゝゝゝ

宗長田所
院に有

維にかく銘二本もれば

傘をさしあつたは

右近守の
音代後者

子を打つてあつたは

只尺

大坂巻乃陰に歌はる

序令

堂毛の背中重くは宿火

鶴洲

瘴気は海を膏薬に煉る

朝叟

月あふみ舟を腹平ぬ

沾枝

鮠の口へかゝるは

仙露

三 一斤茶の川に此里の音の中

义魚

音の中は紙の匂は

立志

途此矢に又新茶の水海

沾徳

山仁者茶の味は粒粒

祇空

大木は界切つけは相思ふ

蓮之

ゆるらり
ゆるらり
ゆるらり
ゆるらり

くまの住
山崎の偏の下

一年のりり
ゆるらり

山如仁者
ゆるらり
ゆるらり
ゆるらり

所んもは 汁を濃くす女難辨き 沾宇

灯を抱ひ影も見えけり 安士

竹貫くあまのあまへ 家物 沾山

曲分り忠臣志きぬ川の雪 貞作

鞍こころよき目よの楳こふ 盤谷

若和中てもかきと割むを盛 沾洲

藤乃下より覗く屋根ゆき 文東

月入我らひ霞む新取帯 核子

色よーたうか子川の音 立志

塔路へ必しゆる眼鏡賣 朝叟

昭居の世よ
けり七少の
まきとらふ
こころこれかこ
いよささとし
いよさとし
ゆるあさう

何く負て、筆本をらと吟ふ 芭我
小よりわづ披を流れ中へ大指乳 序今
六歳やあつお少くへあまのあま 山夕
戦ふと包すいよあけ著あらん 沾石
さびきくくう治ハ今を夜櫓 壘月

以て居在れ者例くあまのあま 和推
さかやね汗こころ一振呂 柯木
反うてハ踏ふのこころて言は月 祇空
梅ふさささく炭団投かハ 賀燕
杉立ふ空宙とひーく懸屋敷 鏡木

根呂くえん
のねらいたる
ろりこるあ

字は 昔の素直
あはしき若る
あつこの時を
後移りやま
さしけり

上

謡の大會を
一与ハき馬し

九十九子

許理能新
坐偏いあこハ

如あさりののと
云いりせら

一うなり

不の利 老のり
礼記

ふのの包
あ内文也

あをと

ゆねとそ跡
山丁入か藤の

藤ハあい跡
あて離ハ

あハああ

大なる叙加よ豆腐つりまき 白雲

金はよ四百回病を洗へとも 山夕

九十九子産 悟気仕わさる 沾洲

四書ハ何そふ 一もむり事 又田

如あさりののと 只家をささく 下記を 梧浩 琴風

一うなり ぬ小らごんこあさこの系切小判 和推

刑と吹ととこのゆらお 慈 管谷

巻抄綾の縁部よめれと動く 雪 浪澳

こころさぬ君ハ表のうらひと 仙鶴

口語くさねや鶴ハ角落 祇衣

中下此離くふ乃 上く 蓮之

粟津晴嵐

沾徳

水の満時ハ
依えて是低

ささる走ゆ
ゆくあさるハ

水の満時ハ
依えて是低

大の字れ 乾く白ひふ月落と

くさりごもりの十里さぬ賣

切抜とひしここの道くこよあ山

冬の隙さる 胡椒つお挽く

帆をさつ 僅石解と此こ乾ん

見きいさう 今控らきと 鯨

北窓から 寒れ落る 松の 燦

朝雙

和推

仙鶴

祇空

琴風

湖十

沾洲

青峩

石解石解か
ちえ 傍んの中
道さうく
さうく

町の者ともありくはるく 襟 風紫
 夏はあふきすよ似合ぬ物候 智谷
 之廻り目よりさるるついでに 又魚
 危丁もくちす及古れ鯉をば 海宇
 環堵とともくくを神唱 沾山
 江戸市此り通くく之琴琴畫 蓮之
 江月浪人 ひとり逢ふ月 戀る
 芭蕉毛のさるるく而家原 貞依
 芳之原もくくはよ来くく翡翠 毒月
 醫者も回へ形之の太鼓可く時尺 椿子

江月右馬守
 遠行といえ
 りの即
 今も
 可も

奥歯斗くく祝儀くくく 沾化
 師あまの心候くくく 白言
 漆夫かくくく海苔好もいせぬ 仙里
 初午の命可りりりるる 図板 只尺
 猿も掃つた門を村取 沾岳
 つきかーいーいぬりりるる 文東
 白い袋のこす急とーい 柯木
 人形此之棹とさーいくーい 扇橋
 走るるりり舟入 沾笠 蓮之
 乞乞や鉛米好の老ぬき 紋梁

白い
 集義和書
 才知く
 学あゆ人の
 白く
 首者れ
 ちく
 けり
 ありと
 分明

文字の上
わし
と

多岐の
う

く

又尺の桔梗、うけと、えふ 松巴

義之流の住居も、り、秋の月 赤城

瓢箪屋より、らん、く、と、中 琴風

目、鼻、水、間、と、中、煮、く、ま、ハ 又重

身、ハ、番、板、加、持、此、つ、よ、さ、し、り 沾徳

坂、つ、ま、く、く、大、和、巡、り、成、と、ろ、板 祇堂

さ、ら、こ、こ、さ、め、い、ま、も、お、れ、あ、 朝叟

大、切、り、を、け、い、も、入、ん、と、流、流、や 巖雨

名、持、ゆ、く、平、家、何、つ、ま、る 仙翁

り、星、如、拱、か、こ、く、帝、の、を、望 曇月

は、り、く、ニ、有

要軒ハ、車
サ、ア、ア、ア、と、レ
あ、あ、あ、

押、お、い、
こ、り、ん、の、ら
し、い、し、し、し、し、
ん、も、い、し、し、

名、よ、瘦、ら、生、る、と、急、木、僧、心 沾洲

表、之、さ、し、し、し、し、し、し、し、し、し、 沾山

魚、肝、お、の、ら、よ、く、あ、ら、ぬ、咳 安士

押、お、い、と、流、流、ら、こ、も、い、よ、和、し、 湖十

月、の、り、さ、さ、け、を、此、伽、羅 貞徳

水、路、ハ、よ、い、布、子、さ、さ、く、秋、の、水 文東

う、う、枯、よ、り、措、へ、と、う、 磐谷

冬、の、日、ら、さ、た、あ、く、は、舞、入、子、ふ、之 風紫

牛、久、保、倒、し、油、を、竹、縁 只尺

茶、も、の、よ、ぬ、鉄、つ、さ、さ、く、舞、女 和推

牛久保 冬列

〇
上
下

自利のふし

つらめいとせき隔秋と佛海宇

世と此もらふ子くらまこよる棧子

服衣り

たぐいのけく之年をと夜衣仙里

波ふるとまて

お居るにせしめ小塔梅白雪

形やよもゆ

杉山は波彫りと思ひ河岳

男色のゆい

髪かゝ時ハ东坡お見舞西橋

さき海壳ははるもくくと大空

身もは破る色ちこ存一は安士

あらくはよ

傘く散くを柳活よと長叙繁

あけりしとれ

秋の志るしと風呂湯と山沾化

あつこのも

ありあり先へおのりて立れ月蓮之

はつたゆ

木は五くふりつらと君湖十

あつてま

叶へぬをえせとむと乃津魚魯谷

あつてま

まう下れと色黄ハ夫少法風紫

あつてま

竹植ハ元来あゆり白是界海宇

あつてま

昏く藕粉山かゝつつく文東

あつてま

那智て見く異れよ再お舎の沾化

あつてま

恙かへをさるるも古樞を沾山

あつてま

散乃海如物ハ石は露只尺

あつてま

あつてま

あつてま

原氏以之の
信を以て
名にたり

伴附陀了附と名清之少
八月此蛇乃新さす男山
戀雨 翠嵐

先利うけ丸四十雀うつ

先利うけ丸四十雀うつ
沾岳

舟蛇其空へも入らず空かこ

舟蛇其空へも入らず空かこ
白雲

飄帯とつて二王さひ一記

飄帯とつて二王さひ一記
安士

肩より之目病此是船とらま

肩より之目病此是船とらま
沾徳

花並ひ多き湯屋此きき土

花並ひ多き湯屋此きき土
仙岩

比丘尼仕り此大世ももき

比丘尼仕り此大世ももき
壺月

平物の十分一場とテ何かりて

平物の十分一場とテ何かりて
釵梁

東方伍のり

東方伍のり
仙岩

祭良法花寺

祭良法花寺
壺月

手と入るふ

手と入るふ
松巴

約なり魚

約なり魚
沾洲

又水

又水
青峩

形うき浮

形うき浮
西橋

形し伊原ふ

形し伊原ふ
和推

のんもあり

のんもあり
貞佐

形ももろふ

形ももろふ
義魚

寸地もひら

寸地もひら
仙里

くせりし

くせりし
仙里

針の尻を

針の尻を
朝叟

針の尻を

針の尻を
朝叟

針の尻を

針の尻を
朝叟

針の尻を

針の尻を
朝叟

幼女のうし

大学校へ入きどよりとる

琴風

夢中朝田

吾れら如夢屋新田も漕ふまき

又魚

まゝ未名後
協のうし

ぬけぬ〜と小柄り〜ぬ

蓮之

下

竹下如過〜と〜と津〜と〜

青峩

この過のふん
旋毛なり

土用ちり〜よわかき七夕

風紫

作

垂こめ〜り望作家たぬ

沾徳

河のふらあり

ゆえをちき捧さやち垢

沾洲

古と碓氷

通良の物思ひ〜望〜業螺〜

沾山

わき〜と〜の〜

はつめ如草鞋忘や〜如歩徒

貞依

〜と〜の〜

金叩〜如果ら〜けき乃毒如舞

祇空

〜と〜の〜

先〜と〜と恒〜と〜と

魯谷

勢田夕照

治漁

ひさねのあめ

鬻女や草津へかゝる梅津

又魚

商人より京

のひ〜と〜田〜と〜鶴乃目如り

又魚

商人より京

子筆如きり〜する日い高〜

青峩

す〜と〜り〜ら〜毛の不足有

賀燕

今年からけ〜ん〜やう秋給

沾竹

と〜と〜切川〜と〜白雪如昔

佳風

詩の舟ら小人〜人豆の月

立志

吹笛〜と〜何〜と〜鶴鶴

仙里

城の尻乃踏〜と〜や〜と〜飯枕

西磧

至てちの目
身と酌の白

大中の袖と海老へけり 沾文
 三月並する人を律儀や 因為
 中臣海に縁をひつさけ 半鱗
 山の雪裾を裾ふく縮まる 湖舟
 日く晴きく母ハおろく 沾宇
 物夕く見えたりや 松巴
 泪こりくひつれ 沾枝
 枝むくへすいふ井此奉加張 沾首
 破ふと洗ふえりや 沾舟
 物入を巻へたりや 寒如月 可圭

朝夕まきり
 りんしり
 物夕く見えたり
 松巴

物入を巻へたり
 寒如月

唯唯さきりとお刺と一々 蓋月
 飛ぶ此毒てハゆく 飛ぶ如 雨磧
 ともよみよりく乾魁と独活 仙芝
 二 藪入を何と包まん 舟三寸 只尺
 妙約りん給へる 雑中 可圭
 多のこられ砥よあやと何法を 文東
 文殊乃白まぶさくおもをせ 湖舟
 縞中と母如腰つきおろり 三珠
 鯨とあめんらまへとく 書裁
 繫踏乃をさるるぬ打は 一和

硯ハ文珠の眼と
 いづまはなま眼
 石と云硯と相
 切ぬぬとし
 厚衣格作ま由
 出り

新勅撰
 う波ささき者ハ
 幼工つてせり
 こらひハ成ま
 ありりめらや

山十七
金華堂集

伊丹崎世の
との白

吹上見んと喋りし	晋如
名流共外ハ題目ナシ	沾化
庭と笠をまく酒花客	序令
おぼろのよわらハときれ棘花毒	仙鶴
おぼろをせらまきく大工もさくら	和旌
比ハ月夜まきより針を数寄あり	松子
見えく炭きち巻く草の穂	半鱸
杖も先摺りて桂子露をまき	柯木
愁猴のまよふ家宿久	只尺
怒りのも浪身不同く志拓極	沾洲

カハなま
ヒ一ノ女
ム人ムム
し

名流と情のま

新右の月利
ウリハ
草のたれを
まの白

閑く点うつ鴨ひとら	山夕
居風呂も乃月の沈時分	法舟
ひーかこまは法向をす家	青莪
天竜へ一尺もなき山縁辺	巒雨
めゆりの革の裏くゆき	湖舟
黄精の絡梅つくめおはく	斐燕
吻乃縄を迅チきちあち	因卷
田村少くやしくりもみる矣	沾宇
男を仕まきくお梅の消唱	雨磧
遠者へち食矢と配る巻如外	佳風

田村川相模
大山の下

金華堂集

官女のあまの
形容なり

吉比勅書と
價時きゆと
わたりのきり
とい徳山満
三玄三不き

俵の山峯 孤まのすそや 青瑠
信波へ乃約米袋面く小 沾枝
運歩くよ鼻をてりあふ 沾竹
さんまよまの伯母ともふく見之 野渡
糺ひーろみ小神く細道 蓮之
さほらーき雛のまきー 秋を
後の御門を反古くせしん 沾草
わつやうたうたをくす石生 序令
不去とろくへはわやくや又驚お 東水
あ刀依掛くぬきをく 彼の月 月下

拾遺別
いふれとんと
のこをけり
桐きりてあふ
へい海とと知
わく天曆は裂
先除のりし

従中へとく家根を牡丹より 可圭
うきーその額ー六柳教 半鱗
か茂とえんろく分細末らひあかり 文東
味あさハ星りーけり二之日 和推
設金よえろは十貫目節 雨橋
そりーよら指切りるはけり 雨磧
伊達ら日に増す芥子ハ身將 賀菫
昔時ハ持あんとさきまといつる 高我
川と振くー草摺 仙里
鶉ともささひあや油さるる 野渡

止廿九
拾遺集

大筆之れくも近づく
 此のつのも見らわらぬの菜舎の
 気おも入られぬ物成ぬ井の
 菊の根よ六身と鉄炮と滝の音
 朱喜集註と夜見せはまる
 記多しを尊園取れよ一本
 今の内くゆへに於吾れに
 新種脈此上をハ世ふり
 之階乃下結利休てしなき
 玉屑も魁乃鱗も水溝水
 文東

尊園取
 色代助助
 ありしお家こ

大教の修養中一編く成る月下
 月もらぬも夢の骨折り次
 小進このもよと舞臺追付
 何と焼白ひ城よそくす傷
 津輿の功尾てきとくあらす
 ともあろと向ひ火つくるまてか
 高ひそくつり筆巻編りけ
 下舞列と見せともおる紙園寺
 何のい哉るくと鄙く虫と也
 思ハまきく漆くハくぬ書は完
 蓮之
 西橋
 沾文
 沾滋
 沾宗
 立志

古條おれきれ
 小進く色代
 能の功者こ

紙園寺
 今ハ左様そ
 かつらゆと
 のぬし

くく屋
あつとさほ
めうとあふ
れ上方朝
る也日なの
ふふふと
ふ

こくも通りとや合はれ
まハ孔奴燕の奴れくらや所
糸とぬくふくく山や松風
串海風とさもろく一舟をさし
世を觀すきこもあはさるや
紫ハ玄猿の色れおあらす
たそあとりも古無と誰
人のふ蒼ちの糸籠とあつき
弦を土産くく紙とれあ
十家盤と踏とつなく浦風を
をさあ——北蒼木乃る

和推
沾着
朝叟
可圭
序令
松巴
變る
佳風
清舟
秋を
東乃

人のうけひ
あふとふ

矢檣帰帆

浪漣

矢檣の同者
頼人のいふ
浪せまきく
たよりのて
船のさあ
船のさあ
うりふさき
即ちの葉か

矢檣系々人々く水橋狩
水くこのかへる鼓仇保姫
糸粒はま年く紙紙仕之
ふふふの場く鼻あひる
卯ハハハハ鵬雛と目刺之
假名とくくわりの儒者ときよの一
まつかりと名月と今ふ年あれ
松のあめり鶴政乃とれ
盆はう猿さかめと隣者

鵬雛
東方翔り
くく出

白石
磐谷
白雲
凍雲
一酒
岩翁
仙宇
雪凍

此三十一
卷之三十一

きれ乃ニ条今よりつら
 盗く切く髪ましくあさや色 沾露
 まいりるしりてふ来陽草 甫盛
 修身と汝休しと猫も夏月 一雲
 五似いあをさうゆき世の中 子田
 袴おハ括揮よまといれがき 倫里
 札ら切く杉杉れをと 几雲
 石とまきと燧も跡の白も跡の 皆可
 上あふりまれと東の鯨よ 雨亭
 二言とこのふいんをそ大云々 貞佐

んんんん
 意ふふふ
 ふうん
 二のの斬

京より伊勢
 ともなれ斬

夜泊の斬汝と括まきく 晋如
 け程よわらまきく 乱雲
 流罪ぬあを流糸日待乃斬 序令
 赤鱗れ身り杉込をれ雨 徳宇
 んんんんんんんんんんんん 千泉
 大切か誓言文ひらかきら智 回川
 戦死客死れ昔身の上 路牛
 若舟のすよいかく以近屋 沾室
 このまき部と杉く持 千江
 猿人といくくくくくくく 琴風

くのりん
 のりん
 二てうろこ
 茶日待
 二をれを
 いといて
 後ゆり
 く考ハ後
 子わら
 二

客死ハ客方
 うまれ

浮吹く鳥

上廿二
 今校註集

蘇州雜俎

故と厚の白
切し以つせり葉凋むや
海宇
十方規よりとて字履の教と為
子簾
今年と腐茶ハ悔草外
風紫

西との強よ
いせ鯉れひとこくわあめ
玉壽
序れ露り〜母乃後見
仙翁

存念より向ハ急流河
晋以
針と糸とふかりぬち〜河
沾露

癩れ〜あつらふも縁とわて
其谷
飾ひり〜茶終〜れ〜
雪凍

こ〜が〜る海収まきら〜泊つ〜誓
水以

長今六多
かあつあまごえ
〜るりかほ
〜れりりも
〜り〜もわねて
ねのまよるこ

女〜もこれ水川〜仕女
回川
積〜死車入〜い〜一人も〜
沾濕
木具〜古〜も六条乃君
乱絮

其名ある贅と持〜も玉〜とさ
雨亭
さい〜い事ハ神や〜けすも
岩翁

もせ釣にあ〜れ〜し〜あ〜と
沾石

星石〜れ〜あ〜く〜貝〜と〜ま〜
凍雲

月〜や〜か〜十年先の月〜ら〜
路牛

あも〜ぬ〜中〜く〜尾灯〜す〜
德宇

花の〜を〜数枝〜と〜き〜
一酒

前岳島
大河の川は〜

を僧〜りの色
みれ〜ゆ〜と云
て〜より〜い〜れ
の〜多〜く〜い〜れ
す〜つ〜さん

盗難の白
最明寺ハ
身のお怪
くぬ修行
者と云ふ

混雜の場ハ
神もゆかし
ありんこと

三
 善も似く苦い草一なり 貞佐
 系中よれこそ中よ見えぬ也 序令
 わさくまのり段越ひらる 子養
 ひ先を母戸をこもらる家めち 仙宇
 了醫と馬醫との各りやえと 二子
 三絃如洞ハかい管舞よーと 白雲
 よよ石印如ゆのぬさるる 仙鶴
 塚こそは地走ともつて懸へ 几雲
 揚屋の沖ら非礼をいふ 喬谷
 十冊とく是らぬる去地並い 甫盛

中庸の語

ハ麻糸を糸と
してやつこと
猪ハ人家より
麻ハ人家より
と云ふのん

とこいお場
高ん
義助 援別
高田の瀬

絶つらと継くまらぬ役舟 皆可
 合せ砥よ茶も水と汲く末 子泉
 饅頭とむく月とくはるべき 浮生
 先の鹿かけらねひかすらん 千魚
 新テさぬさへ後家此所ハ川 琴風
 又変内て儒抜油月ひらき 海宇
 絶つらよりのそをれめか家 玉尋
 こころハ九死一生無事ハ時 鳳葉
 夜涼におきこ義助ハ遊 倫里
 吟とて終らる二言三行 貞佐

紙子ノ火打
多ク入ルニ高
ル也

商ノ事進
多ク入ルニ高
ニツハ早ク入

やわらやうしぬ海にそと船がら 沾石
 世の中い火あゆみ以所も響 沾露
 年々多き水あそび琉球 晋如
 八重の海にそと水にたると 子簾
 きたりぬあそびする人まつ 甫盛
 梵天おまの心むき汗は月 凍雲
 商ノ事進とよか入る事遠 儿雲
 くれも又此れいさた馬士と教 玉尋
 名 曉風とく 積塔 中とと 子泉
 戲言といふお習子習と中とと 湛宇

核列のうし
 易坤卦 履
 霜堅氷至
 只て尻八何
 ちあやまりも
 りんとし

和歌へ二里がまし玉は雪姫 沾徳
 舅より眉より一ツ眼面白るを 仙翁
 牡丹とすくくまのふんとし 仙宇
 本社とハ紙ふくくしり牛も馬 皆可
 八尾久き愛と満くくはるり 一漁
 霜をかきく歌後おも成りり 海宇
 尻て口尻ら魯魚此のやまつと 席令
 裏くく窓まししつをふとと 乱祭
 物多き事よ火うつおておりき 白雲
 小僧らうき世帯にと通一り 岩羽

きんぎょの勅
きんぎょのうら

きんぎょの勅も一羽化をぬきき
千重
啄木もきぬの感月をさ
回川
検見の費高山をすへ
略牛
深窓の鶉衣を伯母極
倫里
是はかたの先小指や
鳳紫
ますきぬ我を擲乃憐
甘谷
腰折り人の淳和の
氷江
鞠子を熱きと耳と代ハ
雨亭
一煙瓦海花したる
子簾
骨和らうと梅雪とあふ

腰折 狂言
世中よりよ
のらぬは
ゆきんり
まうと
の秘家云

三井 晚鐘

三井寺 頌礼
親音とよ
堂あり其場
にて年中の
頌礼の礼と
やさき指ゆ
平危 秘家
このハのま
清きもわ
りあし 焼ハ
三月十五日
月ハあつ
あつ 既白
ナシ 又ハ
女房と鼓とせ
沾岳
札焼く惜いもの何れ鐘
沾德
鑿釜 新しき
仙露
初風と牧の尾筒とつやつけて
序令
水も秋とる
椿子
南風のとがらハあつ
沾山
月ハあつす
柯木
関 編乃十日の月と負く
半鱗
筒礼とハ
東水
女房と鼓とせ
沾岳

三井寺 頌礼
親音とよ
堂あり其場
にて年中の
頌礼の礼と
やさき指ゆ
平危 秘家
このハのま
清きもわ
りあし 焼ハ
三月十五日
月ハあつ
あつ 既白
ナシ 又ハ

切あつとく
内町と小條之
仍い上伊なり

典勿き初と面
白くす作なり

中神 天一神
保命品定之
あり
石のり紀あり
なり 伊勢集

冷幸掛へ多しふ	御	祇空
誓命をハおせし	猫如者板	白雪
神不要とのく	以不とけ	沾化
おちらへも路	了産のり家	叙梁
そのくひを志	さる山茶花	安士
石臼と二夜	として少も年久	和推
元舟の	此橋さる	蓮之
多形	ちある中神	とるる佳風
親りりけ	ふとらん	バ市敷茶沾洲
月よ	やけ	以後夏合
		のり尚
		晋如

切りほせし
けふとれけ
うこそか
みよのゆり
ちとてまら
後撰も下遍照

中原相模
砂のちり

雄黄硫黄も	さかしく	簾とん	月下
とれ行	こも	あさくけ	ふら
風	す	せれ	りん
箒	ち	一夜	望山乃
蟻	さ	つ	らね
ほ	ま	引	く
思	ひ	つ	ま
公	事	れ	る
あ	れ	く	ち
			乃
			信
			玄
			せ
			む
			る
			鷓
			声
			雨
			橋
			和
			推
			文
			東
			序
			今
			青
			珠
			秋
			色
			東
			水
			朝
			叟
			山
			夕

上ト七

冷坂堂集

カラトリノコ
 韓亭能巨の
 浦はくぬ日ハ
 万葉ニ有海老
 名ありのしこ
 光悦ハ樂焼
 の名也
 多脚より
 下内与し

換料く借る蔓多程く月 野渡
 啞の喉覗いて舌くも林の地 蓮之
 特弁くきて源氏とて 蠻雨
 うくもりのんニ光悦とてやけ 又魚
 仕忌や乃介ハ帝衣其也 立志
 六十程くく成るる夏の雲 仙里
 伽羅抱くは馬士も横面 沾徳
 誰くくニツ巴乃船ぬけ 朝叟
 媛ゆり 節くくくまのちも非 松巴
 子稻甘果れ向ひハ 蘆笠^ホ持物 沾文

大谷の
 藤の解と
 せり

海海寺江戸
 三田あり曲路
 多人の竹た
 あり

からく 鞆
 漢武後庭
 純戯也

淀くぬ報を牧すく礼 沾徳
 ねくち舌く笑も細く 仙芝
 就鳥よ今船引く曇る林凡夫 沾山
 灯心乃思をぬめや濟海寺 蓬月
 名系らく帰 不親於眉 雨磧
 おくく吸口あくく五月信 可圭
 社社の的り射くぬせ之 叙繁
 二川井ちく礼は往来くく向 蓮之
 胡蝶ちちつて 黄祖の夏 佳風
 からくくと歌くく尻く月も 東水

正十八
 漢武後庭
 純戯也

信長多結筆

清水 祝音堂
絶好有

一ろふゆう
のそふもく
一の既一通
なり

三 宅宿此吉の天狗酒より 白雲
 厚次此の川越中へ 安士
 桐原此味と産六左より 沾岳
 下市此物と化めくかきを 吾我
 りふら一いつへ存ふ此物 文東
 関ふもらと世一とささる 湖十
 素るおあるひも人の子れとめ 一和
 さへい日よくらおる持りら 祇堂
 例の路入る例此衣く 三并
 朝夕ふ産根了地うけき天守番 五磧

新風辭ノ如
少飲燕
りめて白着
あつてなん

田舎より
あつてなん

一又くうむ魚乃公舞 用 柯木
 くまはくく産取ぬを以産 半鱗
 后土と祝る物とささる 椿子
 拾ふも月と跡も家跡の形 佳風
 伊丹ととを背戸のお勢 蓮之
 かと控さこいよもより地らく 晋如
 田とともを女を産とささる 世話 沾洲
 盆山やひろひうぬより産 安世
 持るら名ら割 昆布 可圭
 約米此藝ハ括きと老り身ハ 沾岳

上
金
龍
堂
集

孟季滕文公上

伊予 仁和寺
宇多天皇御
庵室依て
おふと云

朝長の歌
くさくさ

沙^二下^一此湯と何ひく^二尻^一枕 仙芝
 依り見^二から塔^一を^二活^一と^二袖^一家 只尺
 舞^二何人^一を^二回^一お^二打^一る^二盃^一 東水
 花^二よ^一と^二さ^一は^二ら^一る^二糸^一以^二織^一多^二舟^一 文赤
 わつ^二子^一及^二よ^一見^二世^一能^二自^一う^二つ^一る 序令
 お家へ^二と^一つ^二入^一らせ^二ら^一ま^二時^一毎^二る 治澳
 蓋^二師^一此^二心^一金^二紙^一を^二外^一 仙露
 子^二稻^一敷^二を^一一^二舟^一り^二れ^一夕^二月^一夜 三休
 ね^二と^一あ^二ら^一鴨^二赤^一の^二葉^一乃^二乃^一 舞月
 穢^二法^一の^二櫓^一の^二苗^一寺^二能^一取^二お^一ふ 叔梁

江戸の白ん

所^二ら^一と^二も^一
あ^二ら^一の^二の^一
て^二い^一あり

易論卦天
水違行訟
終^二三^一の^二り^一

筑^二波^一ら^二り^一く^二縁^一馬^二の^一戸^二植 青寂
 懐^二と^一馬^二此^一合^二何^一に^二私^一を^二 白雲
 系^二屋^一乃^二勝^一之^二求^一不^二海^一火 湖十
 ろ^二つ^一ま^二く^一夫^二此^一乃^二檀^一木^二る 仙芝
 癸^二亥^一此^二夜^一よ^二我^一子^二を^一こ^二め^一と 祇空
 灰^二ま^一と^二又^一ら^二る^一麻^二衣 和権
 下^二れ^一い^二ら^一い^二鼻^一ん^二て^一ぬ^二く 治化
 何^二初^一く^二東^一海^二乃^一れ^二治^一次^二る^一 一和
 何^二初^一い^二を^一我^二月^一守^二く^一醉 沾岳
 訟^二の^一卦^二へ^一治^二合^一け^二く^一つ^二ら^一の^二 沾山

上
三
十
言
教
堂
集

堂上方の句ん
井中三十三
より何の小路
わさし小路を
あつた内だん
か何とけりて
ぬくさ世々
るゆん
嵐のうらわも
竹より地吹

良男ら門く編置志評
神本ら引欠より威徳を
ちくてをさし麩とねよか
小路名よりよの波も熱かり
帝女しあから泣け笑ひ川
然らんとおもき杉戸を身てぬ
恙よいものやここの火氣
社より願斗もれも同朝
雪如自願も益波し之也
花の恒信人其り馬二川
石化といへは船子こいふ

佳風
仙鶴
白雲
多我
一和
沾徳
三鉢
沾化
半鱗
序令
鏝繁

伝本祭也
七紅の月子春
人のふと中津
豊わかし春
崎して供の心
とせまうて
又舟よて言
るゆん

唐崎夜雨

客人のまもこ何らく夜は夏
麦草のろるる小曲くく
空起り札のつり入るめく
竿たけりし猿の夕月
鈴くらし声万静まよ織結
園所へ二所もちらぶた尼次
外記内記筆と鴨舌と並ゆも
つかね重く耳より引
白土をゆく廬山へゆ
あは月下

沾化

貞依
少
松巴
湘舟
古井
兔谷
法井
月下

不ミソツク
陶子とのり見
子ありすく新

踏まは四ハ返
の田をく復分の
入まこりくく云

まむ暇とふ所
りかり

枇杷葉飲く今よけさた 高瑛
いつきふも思ふ事 此舟下し 角阿
十年がりのく 城へ囚人 鴻舟
ひつち回ハ諸ふ此田の由つり捨 倫里
鹿く迄——く胡チ不う不焦 立志
新月の男ら玉く四下致すり 翠蓋
いたく痛く息も山け 沾岩
火にお見乃迄いさるあまやかく 沾石
まぐつるまきまき傘下 賦乃書 賦泉
はくをいさるく誓—— 志業風 飛泉

蘇中嶋 江戸
はかりてさく
くろくろく
あまのり
山をゆりしもの
りりりりり
切らうと有

かきあまの
系考れんよ
くく海さく

中下ゆりりりれの女房 千山
ららららら越中 朝叟
重石のくくけ分くけ 風紫
瘦く人二川取より寒若鳥 若峨
嘶くまよ全盛とくく 沾宇
おこりおれあ乃よて 圃かき 柯木
なまきくくくく 庭ら侍換 沾枝
撞樓から海見の白乃くく 沾露
昔船乃くくく 醫者流すあき 沾化
いより外れ砂糖と勉 只足

旅籠無入暮雨
鬼本朝文粹

水風呂も時喧る雨如塊
祓宜なる布子此晴と引遠
又うは捧よ輔沈む波
其の松名付ぬ時をさそん坊
さー人への恥流るる一盃
風の月石喰りてくめーく
こまぬーくあふ方々媚
段引ら夏より縫く秋の嶺
枸杞茶たときさる鬘を赤海
鮎の母さる下田を越る祓
志

たそなれて生るる
ころし

ゆーく
ほらつらり
ほらつらり
ほらつらり

女三町 上は

さうく細工ら清繕よ照系
舟一の胃れ縮へけぬ雲松
風乃のけら六ふん志の響
さーからーあま町よ種はさ
かろるにほも無病と落る現色
踏ひ目とと巻へも糸せく月れ朝
おしけの白もら友喰はく
双六のりあらおぬ良の孝こま
これの中をれ禹非いそーき
うらひとて美人のあれ声の響は

女三町のゆるる
うつろひり

こいた
仕業
ちの多清のり
高治水書經

兔谷 山夕 沾化 翠巖 沾岩 苔峨 風紫 只尺 松巴

山垣 乃 是 之 源 三

仙字

沾枝

倫里

雨橋

沾首

嘉瑞

湖舟

法井

沾石

古井

車 乃 是 之 源 三
て 乃 の 源 三
乃 の 源 三
乃 の 源 三
乃 の 源 三

乃 乃 乃 乃 乃
乃 乃 乃 乃 乃
乃 乃 乃 乃 乃
乃 乃 乃 乃 乃
乃 乃 乃 乃 乃

柯木

賦泉

德舟

沾德

朝叟

翠燕

沾宇

月下

子山

沾枝

乃 乃 乃 乃 乃
乃 乃 乃 乃 乃
乃 乃 乃 乃 乃
乃 乃 乃 乃 乃
乃 乃 乃 乃 乃

下 三

乃 乃 乃 乃 乃

邦達 古ハ甲

大洋地むまやかてもまき板 立志

外信列々々々 俎箸らちまの如月白 倫至

毛足如素碗の後朝とをれ 法所

流りもすくく 小判 若峨

帆へ便、如も川もる能村 松巴

安さ身ハ漆如余り苦ふ成之 山夕

草履のりらえのりも来、集 貞佐

二味、くぬ茶、ハ先へ茶つ、共 朝叟

名 鄰ハ、くぬ 離へ洞突き 雨橋

、近せす、い、も、大、お、め、何、あ、ん 仙宇

よふも中、く、伸、の、の、夢 沾岩

只尺

流、如、く、ぬ、ハ、橋、志、の、中 古井

若、お、理、の、理、の、と、結、と、ぬ、が、ま、り、や 角阿

仕、立、く、き、け、ら、上、下、を、麻 賦泉

衣、く、れ、ぬ、ら、四、睡、如、の、く、ふ、く 飛泉

ち、さ、い、ん、か、を、さ、ふ、よ、又、百、騎 沾化

に、も、も、附、子、如、の、の、箇、の、聲 柯木

羽、等、踏、ひ、乃、奥、歯、か、む、ら、覺 鳳系

お、ほ、く、の、の、ら、と、さ、く、ん、持、砂、け、子 沾石

このたくの 邪悪と云々

古し千夏の山 拾得虎よて 四睡く

茶力つゝまゝ ぬ ぬ ぬ ぬ

かのがうー ぬ

十番よつち 笈摺く糊 青瑤
 泥痕に縁側通る月わさる 沾露
 秋を引ッけくゝる 燕如唇 沾枝
 白粉の花ハ瓜おさすいあり 沾岩
 菊ハ短き氣も取不控規 角阿
 面伏々後者 絹のハハハハハ 漁舟
 古鉄貫此をちりし 聖像 苔峨
 古池乃菊哉と云ふ 桜をちり 千山
 紫あ~~~~~ 小酒市ハ炎 紫雲
 任官此菓子も此ハ菓子ハ 湖舟
 以北をさき 一家よつちつき 沾石

西所極現
 平山
 かうのゆきと
 ちくかじと
 ちまかたり
 名根及雨陰
 限ハこもるか
 かく飛けり
 かじさるし聖言
 約林のゆきま

望田落馬

早き宿と 宿ハ去りて 田稻むし 海宇
 さい晚ふ以客 疎を中し 木犀散らさ 佳風
 とを田面は待 関札よ 唐流のま 八月と 雨磧
 まけけらる 雲もおさ 海りたより かなん 歩崔
 馬宿也 ころ影黄と ころらへ ころ久 沾露
 大おち隅へ やらぶの かなん ころれを 鶴洲
 的ノ白し 風おろし 痒いん 悲ハ草を 沾竹
 源氏うへ けりさ かなん ころれを 沾竹
 のまをよのれ 二之 年人形 つかい ころ魂 露谷
 市子ん

沾徳

北溟 莊子道
遥游

仰臥かまりの
形容をさる
七隻七人の老
人 隠逸傳

涼——りきこも舅う——かき 李溪
根着川を釜の焼ききく改不 芳津
北溟さ——くトヒウラ 鑑 カウ 何と 夜霜
筵うけ此能うか——くも カウ 河干
穴翁 振こ見 カウ 七 叟 賦泉
山際如看板 カウ 一色 芦中
口上をらせ カウ 一色 芦中
四騎 旅 麻如骨と削 カウ 岳
法華こいへく 鏡もおろ カウ 我常
月よ雪後 家合せ カウ 蓋袋 如沾

知らぬよき
りのくく
ころを

ふらふら
ふらふら
ふらふら
ふらふら

撞木のさげの物おれ 角 釵梁
小すまよとためて 室より 車 隣笛
曲水らりき 地如 け 念ふ 琴風
多きく 慮をついても 日影の 安士
ふ——へくうへる子 田代 費 沾洲
戒名と立 鎌倉の なくさきり 可漆
夜々 何時そす 中 漏ら 沾石
綿木の 舟心 とう——く カウ 秋色
涙、換 越しゆ 何 伸立 左右
如——き 以 言 換 け たら 此 垣 ぬ 沾雪

海濱序より
下代めきしる
るりし云
雪多ふんふを
つてまふまは
かりめまは
つてまふまは
まのひま

漫頭も大般
若もま朝の
ゆし

かゝるおしきつららん 徳宇
あつり一人のあまの系流を 沾露
越へて山車張買分よやく 沾徳
いづくをい髪と切きこひのく口 李溪
七日のかり一快意はひま 歩雀
貞元せい月お氷乃ひく起るの 海宇
下代のかちのそふゆりま 露谷
二 燈頭こ六百あまの越されけり 沾竹
馬別當へうらむい 文言 鶴洲
各いふれ厭ひききく夏まぬ 夜霧

他卿へま
くくらし

奥方ふりか
よふたふか
わくし

原むりし
あまの神
のまけ
かゝる

あまの王くや流の系流日 安士
をいへて陽をよ月おこまると たる
梯の背中れ丸い丁を風 芳津
我こく城よ一筋とんか道 琴丸
学寮とがふ竿下下帯 ぬ沾
越よ何す繆よ何は旅さり 芦中
は極海ふねらるる 沾岳
海く在神れしけ小解るこま 我常
今鼻鏡よこつてり世也 佳風
落かけ月よこく 観かき 賦山

可乎切て約
てとげも
中なほうら
なり

ト者々々
毎年の
まを
まを
やふ重
幼女の
男家上郎

久上の状
活草
礎
二代目
不依
年
言
こ
下
藪
可漆

藏鈎 奉酒
漢武鈎
人の

伊吹
下
下
下
下

凡
逆
月
了
針
鈴
雷
第
伊
糊
秋
渥
浜
步
海
鶴
李
沾
左
露

とらふれじよの
とらふれじよの
寺の定家
寺の定家
寺の定家

はらくあたるお火れある家 釵梁
かろ味喰まら 鶴のいしる家 泊洲
生り菓とのとむく。武士 紋帯
段立の色と一葉も動さぬ 青津
接荷も接す風を引さる 徳守
と神此二尊もよの立物之 安士
よよふもこも取中かさる 夜高
今日を後めり八福をく嶼の巻 泊石
とくもくも黄門法衣 芦中
お松信がしき重垣消げ尔は存 如泊

山如麻川如帯
誓言約のよこ

とらふれじよの
とらふれじよの
とらふれじよの
とらふれじよの
とらふれじよの

麦こ嫁人より七川より嘆 沾竹
面白き此より合く川の帯 沾岳
首乃流よこよこまる風流付 可添
さふかやるとさくくは子代も絶ん 秋色
我ふこも生美とそいよ 沾唐
月見えよ今らぬ物とも老なる 沾雪
後次我を免ふもこれ秋の声 左右
葛西から取ひてハ投て麻海を 隣笛
桃子はうも色かト 粘蜻蛉 苦津
とらふれじよのよつのは森せん 沾海

山如麻川如帯
誓言約のよこ

十七八の筆 舐るや心 賦山
 山伏の二人 尚ハ音考や 沾了
 芝舟始ごちり 皇北は早魁 五磧
 通名ら耳よ立ぬ 皇北は早魁 佳風
 尼の崎 皇北は早魁 夜夜
 皇北は早魁 皇北は早魁 釵梁
 皇北は早魁 皇北は早魁 沾洲
 皇北は早魁 皇北は早魁 步雀
 皇北は早魁 皇北は早魁 沾叶
 皇北は早魁 皇北は早魁 沾岳

通名ら耳よ立ぬ
 皇北は早魁

皇北は早魁
 皇北は早魁

比良暮雪

七人をとら 小濱雪は雪
 たりゆと 皇北は早魁 沾洲
 荒雪の 皇北は早魁 白雪
 おくある 皇北は早魁 倫里
 賣買ふ 皇北は早魁 釵梁
 皇北は早魁 皇北は早魁 百里
 皇北は早魁 皇北は早魁 皆可
 皇北は早魁 皇北は早魁 回峯
 皇北は早魁 皇北は早魁 東岳

沾德

小濱ハ若別
 比良の雪
 七人の屏風と
 細内とらよ
 秦宮の琴曲
 小濱ハ若別
 比良の雪
 七人の屏風と
 細内とらよ
 秦宮の琴曲

皇北は早魁
 皇北は早魁

危丁おさねさくらにやあ〜醉 仙里
 水仙よとつき合する 柳若草履 半鱗
 科戸の風もませぬ 鶴若圍 松巴
 江の宮若のよま 裸ハ冷〜き 椿子
 行年あよニツ〜くさき 柳若
 竿葉を調市も吹く 度〜り 高我
 塙の住居たつた〜天 立圃
 牛若背よ人とさる〜た物も 秋 佳風
 萩の上葉〜カゲ〜 妹の子 仙若
 月ハ河の玉華哉あ〜山寄へ 素丸

科戸の風
 又乾のふれぬ
 江の宮若
 とらぬら

人とさる〜た
 ぬえ備のおか
 三受記 牡丹花
 秀花酒の

花がと時の時哉 坊〜い 喬谷
 葉のぬき〜が 紙若流来る 琴風
 い〜らよ〜け了 体む十位 义魚
 ま〜ぬ瘡〜り 捨了〜 祇若
 ま〜と〜とあけ〜く 又男出生 沾山
 急夜〜〜 月〜も〜ま〜う 生腐拵 戀雨
 不ぬ美見〜〜 遊〜お人 壺月
 傘若おさ〜こ〜ろ ありと〜け 沾化
 ち〜ふ〜とい〜らら 分散ち後 和風
 汗かき若小橋〜ら〜ふ〜く 共の子也 湊十

信らりやゆと
 い〜らよ〜け
 ち〜ふ〜とい〜らら
 ま〜と〜とあけ〜く

とらりつうの
 若倉山 峰系

金葉集

けらさよふくく薬代の命 椿子
 星合を心れく難水引 倫里
 月よりんせぬ紅ちの挑灯 皆可
 新そよふ是郵傳如也か 仙里
 浄乐我常管乳志も 佳風
 古情をくりて 汙洲
 家徳利ちとと我中川 半鱗
 くら宿をくくく照せ投て 立圃
 鷹よこひも来に鹿と取 東水
 多死倦て食もさかや 仙鶴

三輔黄圖
 歳貢為郵
 傳者郵傳
 ありはひこ

其の如く
 中河くさきニナ

らは道
 離くくぬひれを吹き赤の石 琴風
 兼咲く盗人乃鼻れ言ふ成 义魚
 気吹戸生れくすも放ちて 紙空
 似我鋒と追かけくある種材水 蓋月
 同心所よこて越川 越 素丸
 鬼百合はかりにくく白雲 和風
 硯よ人我呼むく摺はは 白雪
 洞道も来物道よ廣くも 百里
 百村芥も片眼さひき 沾徳
 月如鴈つらとを分れく引鏡 回峯

神の名中臣

琴風
 義魚
 紙空
 蓋月
 素丸
 和風
 白雪
 百里
 沾徳
 回峯

金葉集
 卷之三
 下

つねの屋と
の所のせも
ありし

つねの屋と
の所のせも
ありし
年一八人
湖十
喬谷
釵梁
柳着
二階
密海
月望
沾山
青峩
半鱗

あつちの
細き窓
墓のち

此の女の形容
とちのち花
夜は人のれ
とち

うづさ松岩のりつ山形と
切きつち何よあゆまら
灯欠阿基あらしあわ
れんもあまきけ梨花枝
まー継りつ月柳
学頭つ規と喰く故りの
合羽もとすふ女を
括ちや山岳結の山あひ
海風は吹きくは舞上り太刀
青峩

このし
うづさ

まろくとりふ
しものころあ
るん

まろくとりふ
あつちり

陳三官の銘
代家 江戸三田

染人の子ハ	あつちり	こさく	沾洲
お告くも	お告くも	お告くも	椿子
二ハのひる	二ハのひる	二ハのひる	倫里
馬控	馬控	馬控	湖干
榮れ	榮れ	榮れ	松巴
漢子	漢子	漢子	素光
伊と	伊と	伊と	柳翁
崩牙	崩牙	崩牙	毒月
業の	業の	業の	沾山
こはら	こはら	こはら	沾化

昔れ糸糸河
つまはとれと
糸つまはとれと
信長が糸糸河
より糸糸河へ入
らぬ糸糸河
草の糸糸河
糸糸河の糸糸河
糸糸河の糸糸河

楊列 樂と
糸糸河

二反吹	二反吹	二反吹	糸糸河
雨木	雨木	雨木	京詞
内と	内と	内と	糸糸河
糸	糸	糸	糸糸河
灰ま	灰ま	灰ま	糸糸河
辛	辛	辛	糸糸河
乳	乳	乳	糸糸河
お	お	お	糸糸河
ひ	ひ	ひ	糸糸河
夕	夕	夕	糸糸河

大雅言を
のりん

あきよく別つ本社の牧
男土四の行ゆへき油山一
とやんとさせしハ親を心り
晴天は結ってのりんの軽
屈原漢文辭之間大夫の
けつてま
りのあふん

屈原漢文辭之間大夫の
けつてま
りのあふん

柳芽 泣化 立圃 志哉 百里 半鱗
山吹 百里 志哉 泣化 立圃 柳芽
大工もてりしと里魚湯乃あり
五願の管くゆくをれ一名
ふーくくはは生山吹

脾胃虚茶

不二

冠里

伊予あをこ
唐土明列より
ゆ富士のあり
とく陰のあり
とく陽のあり
ゆ

雪凍 我兄 宜雨 沾徳
火取おれ水 仙霧
人小れぬくハ苦一 記綱
ひ月はほおふよ夫きぬ柄下緒
とくしらもよき横しらすも萩
お歯黒乃親く遠坂すり遠 祇堂

舟かよき人
の物と云

酸も其いも揖此を小く
神代以勢子 神代女之ととん之塩鯨
かきうらうら 興り少川よらうぬ定子
公御非王命而 長とく只よら越れ埜也
不越境ヲ 伝 ぬるの世ぬらちハ必小病
 錦木は鏡の貝ハ折摺もそや
新の所より條 筵か——袖を干く主は面ら
かきうらうら 未うけく根来乃まら新枕
かきうらうら 是り四十能初付ちう中
 濱焼の骨をおてむむ——里持
 序令 風葉 和推 又魚 白雲 百里 礼繁 百橋

公平本よ成中ノ田の苦も何の
 花運き氷家此布もく月此
 よまるととけく味味もあ
 年とつてく抱きうつぎ
 足袋れ下よらうらうら名子色
 葱さうらさか鼻もり細殿や
 菜根不埒ふてもあんざん
 葛西うり白髪白髪森の森るまら
 火の早いふく野さくくらる
 鬼灯を同行五人吹かそ
 海宇 沾洲 沾岳 あ士 只尺 文東 壺月 柯木 沾山 東水

白髪森 江戸
 あり

白髪森 江戸
 あり

子梅ももきまッ裸也 萬族

神意其頭中かれば伽羅も少 鬱雨

きくひひとり大王も月 雪冻

奉幣はうの照叶に蹴揚を振ふ白幣 我兒

は後借——くや夕白如親 祇空

切きままと切きふ文七歌が 仙露

借へ磔ら道くは 風集

洲志の流き灌頂より一糸と 百聖

吾可りはる肩の如きそち頬杖 和推

矢見こ来ては函ふきを明かり 只尺

奉幣はうの
照叶に蹴揚を
振ふ白幣

め意海の歌

白雲
沾露
蓮之
沾岳
沾洲
盤谷
乱絮
海宇
安士
高我

聊尔よ飲も切らぬ以茶壺 白雲
 黒く中ひるん舎は前々村雲よ外 沾露
 空へ投くは灰もきりし 金 蓮之
 け多りよろ川がしと指拉 沾岳
 辨ぬもこそ巫子と見えし 沾洲
 つまこきて汝乃上く町修書 盤谷
 合益さけく月宮へ入る 乱絮
 秋いさくかろくはと海を海の垢 海宇
 流人の聴く白うねる綿 安士
 たつらと女もききむはる 高我

住所とて
いぢりて
白く 漢文
通倍季氏

鳴人をやうく
りのりりり

枕輿^ニ逢ふ沙^ニ新^ニ供^ニ以^テ爲^ス 文東
 摺^ニ小^ニ木^ニを^シと^シん^ニん^ニ心^ニこ^トう^トく^トよ 壺月
 ち^ニの^ニん^ニち^ニの^ニり^ニと^シき^ニさ^ニん^ニの^ニた^ニか^ニ不^ニ 東^ニ水
 ち^ニの^ニく^ニを^シ 衆^ニの^ニこ^ニめ^ニと^シ理^ニ雁^ニ二^ニ節^ニ射^ニ球^ニ一^ニ也^ニ 萬^ニ旅
 鏡^ニを^シ端^ニ山^ニへ^シと^シつ^ニち^ニ之^ニは^ニく 柯^ニ木
 本^ニ像^ニを^シ薰^ニ大^ニさ^ニか^ニら^ニる^ニを^シ也^ニ 序^ニ令
 志^ニ持^ニ小^ニ急^ニへ^ニん^ニと^シ母^ニ持^ニ急^ニへ^ニん^ニ也^ニ 戀^ニ雨
 近^ニ年^ニと^シ破^ニ子^ニよ^シこ^ニめ^ニれ^ニ從^ニ中^ニ也^ニ 又^ニ田
 は^ニ先^ニき^ニの^ニ帝^ニと^シの^ニむ^ニか^ニ若^ニ深^ニ 琴^ニ風
 其^ニ之^ニ瘦^ニと^シ得^ニ志^ニを^シぬ^ニり^ニ小^ニ振^ニて^シ也^ニ 雨^ニ橋

利^ニ足^ニす^ニく^ニ、^ニ暮^ニる^ニ君^ニち^ニ子^ニ世^ニ留^ニ也^ニ 沾^ニ山
 此^ニあり^ニく^ニ兎^ニの^ニ毛^ニて^シは^ニつ^ニく^ニ月^ニも^ニ似^ニ 仙^ニ窟
 四^ニ角^ニを^シお^シく^ニ十^ニ圓^ニ子^ニ見^ニ世^ニ 喬^ニ谷
 船^ニと^シ小^ニ燈^ニす^ニ衆^ニ衆^ニも^シ六^ニ輪^ニ也^ニ 雪^ニ凍
 白^ニ雲^ニの^ニそ^ニひ^ニ快^ニち^ニよ^ニと^シ也^ニ 沾^ニ岳
^ニ海^ニさ^ニく^ニと^シ今^ニ日^ニは^ニ法^ニ法^ニ猪^ニよ^ニ也^ニ 白^ニ雲
 伏^ニと^シも^シく^ニ舞^ニ小^ニ畜^ニ盆^ニも^シ也^ニ 和^ニ推
 外^ニ郎^ニは^ニ本^ニ家^ニ成^ニる^ニ色^ニハ^ニ深^ニト^シ 風^ニ紫
 孺^ニ奴^ニん^ニめ^ニり^ニと^シ河^ニ骨^ニは^ニ莖^ニ 海^ニ宇
 こ^ニま^ニさ^ニう^ニ小^ニ十^ニ位^ニ大^ニ木^ニを^シわ^ニり^ニか^ニ也^ニ 蓮^ニ之

おれのみを
つらん

ぬまふともふ海ふあ髪 沾徳
 ぬまのくま一文字く言灯籠 沾洲
 別々星ら二番見乃中 义魚
 此月く平目れ表是始うら 百里
 市名清原本 乱絮
 中庸の中よりかきあ也 安士
 水子見へく隣いらいやき 壺月
 いつうと大竹院流のくれの陰 萬穰
 食喰ふ誰子此いつうりせら 壺谷
 仙人の地系引山むせらくく 沾山

市名清原本
 江戸のあつ
 何名のよと
 ともや

ぬまあけく
 さまきり

奉納の通りと
 油のてあつこ

太刀波油よこつとさひよらるる 青莪
 傘持ら振立ら進く向も出に 巒雨
 盆合間屋もらわすと断つ 序令
 町をへくあふ付よるも太平記 柯木
 鏡をへくりの嘉祥徳以 祇空
 清原の隅よ地系も涼くらり 琴風
 思ひのくまら推さる反始を 沾岳
 そのかいらつく子よ孫寅よ起 文東
 疋氣もやすく日高川越と 赤水
 若れ月めれいけこまきく人 西橋

奉納の通りと
 油のてあつこ

仕度のもよと
 くれりて馬大
 寺のあつこよ
 うけらる

日高川 紀列

阿難ていち 名止しき
 水仙のみすのひてもうら衣
 串わさくろく 燗くさくろく
 この橋は病づりり 露れ雲
 主従は金へもい 粧引
 晴る今日草履くく 米五俵
 海老尾てもなへとも 切に
 花の時羣集乃時々 袖の天露貫
 陰も雲固り 松こ節梅 沾山

仙露
 乱絮
 白雲
 又魚
 雪凍
 序令
 沾洲
 青寂
 琴風

燕花微笑
 切れろくろく
 とくろくろく

文あとき
 とくろく

後解蒼子句負外一 松真 沾城

松橋や百よむ中此破さる
 重多新白衣よ涙不袖雪露玉
 極開ハ渠よ難役 ともい
 多も惜また年と見る馬
 兼小蛇の龜つららるるこ片
 中へ森れしきく 非時も嘆
 使者屋よ本綿引裂新如月
 沢原木黄くく 緊茶と掃 沾十
 捨く粒子紙葉 舂秋の声 椿子

鳴のねと
 千鳥の程
 乳もろく
 云くろく
 たりし

多活の人の
まよふと云

うゝあひや
色よりうし

神くくくい乞食云おれ
 立志
 子よ何ぬくくる延天命
 知足
 以糖ふも碎やう清き乳髪
 法竹
 錐の囊れやうむりて出ふ
 松巴
 庭およ猫乃掃掛を物りて
 高人
 驕くのけて我よわどを
 活岳
 轆ムカハキを絞ふるふ舟らうけ
 寒江
 竹ムカハキ燭よこも一と下談
 活石
 利ムカハキと酔ふ五月如新を封り
 活宇

うけとも
活ゆとの
うくゆし
沖ゆふあ
ゆりのこ

活氣暢浦
の何さう
りり

これと色

ひかましく
せしりう
あまのこ

山よ極少の山ハみちれく
 活枝
 以饜菰のかけもむくのり先
 活化
 何哉莖やう公事一列
 朝叟
 か響了の回りと教へる病つひ
 露新
 比も杉田は桶を海
 活山
 蓬菜は旋毛ツもいふ馬也
 高嶽
 滴みくく反此濱縁
 収祭
 つきもなき絵刷毛は乃あま
 活身
 結へ小袖こりうりやなき
 活純
 せし以後神ハ活人うりされく
 活雲

京河のり

衣冠のほ
まことふ

足踏て
はなれし

大工次より免許札まき

湖舟

龍の内れ多きものより荒鮠

沾宇

慈法乃帰ふ二藍れり

密面

恵くるまつこととて取れ夜

車取

葎毒の邪スエす成り足占

晋如

首月二や體菓子此すり拂

あ士

幾秋合点ニラ——四十寺

雨磧

借し金城より廣げぬり下り築

浪敷

浪人をしし元祖まてはめ

笑遊

旅篋ふくくくく松乃路とと

倫里

と形と云ん

と色をゆゆ
とれれい
のみ 物まき

念うし御座
のらちうし

あまれ物江列

版立ぬ日ら暑さそんゆふ 碧谷

水取の森像もつるも新原磬 又魚

新宿のらい後中又 甥 仙豆

吾徳も膏糸綱結さめり 序令

増本いゆきさるを失ふ 可圭

納豆此糸く引く縲ニラ 可水

月を誇くらり外乃吾風呂 佳風

病りり子ら坊主ふかき窓れ秋 子江

酒川を横へしふ春法 沾節

堰と来るあまれ物も丹生れ杜 風葉

下三十一
合録堂集

中意用箋
札記

三日 朝日一かゝる稚子行列 和推
道きても細くも拭涅槃以 秋を
蒼こころもぬも玉粒女依の身 蓮之
乳もや食すも泣のも十二筋 半鱗
只葉一またあとも中孝 沾漉
あゝ来る四本柱よ諏訪上下 沾洲
鶴も声添く吹くはる 稻 漉宇
皆背懐らこきても分る拵の洗 沾枝
之ッ梳れ若そ民乃 落月 毒月
佛眼の肉もあゝは輔これく 柯木

種心

藝備庵

信あり其
あかしく
園のまの
と云ふ

四白ノ文ノ
秀行品

静く祝し

あゝあゝ

有衣もろり帯一成しん 只尺
中結つら知れぬをもく念深 如十
七府海 一く豆腐呼魚 沾宇
覗く引くも屋こ響る 藝倫菴 沾山
魚 魚 子と 禱。山 文魚
雪山のてんから怖い百合此口 文赤
幸笑へ清不棟 上げ 備皇
陽中此態勤了く笑ひ合 和推
九人ちろ水こ絞る 禪 沾露
気町の二枚の首目へ廻一扶持 佳境

馬ふも白
自達水山白
淨土禮極

今山ノ白

清康熙皇帝
苑ある陽
妃の御とさ海
巴ノ

栗ふもあらん下よをる文
新の時節職やけり藤ま
淵ふもれも鬢かられ老
之あま身と凡連の種を撞
狸の付も里へ出不月
四ツ海へ蒸籠一荷然涌
内場と仁の居ころ引菜
折ふもき康熙もさめとむあ
さうりー立帯一乃縫との
今日も熱さめり井をさきあ水
秋を
沾岳
赤水
智谷
高人
湖舟
小江
志足
露新
仙里

信長あつとハ
くらじふあ
らひ一カ葉

旅宿の幕と

御宿
礼用貴和

換——く見えハ世々換ハ所——
大切れ是も形す勢へ袋
毒よあらぬと憶言等ら提
年れ矢乃引くろきり崑崙人
俵ら方々く作らぬうとく
何と遊と坐えよ成川仕はき
蕎麦切多き新丸の杉
幕代よ我ハ負ふとたひも
和韻の唾硯ふもせよ
逆刺ハ是半日れ礼の用
風象
壺の
吾我
西磧
女士
晋如
半麟
松巴
椿子
叙梁

何の横川より何月か客
 御陣乃無事此の好生會
 賀燕 苦竹吹もよ高秋
 法舟 鶴舟とこより一鉢る麻頭巾
 蓮之 君と富との中これ横着
 白雪 昨夜もあき園の下がさしてむとこや
 沾石 環乃端ち丸茶り著
 沾化 吾家小もつて侍るちまは
 沾若 又二歩足せれ馬也たごき
 序令 こそこにち小廣敷のむ乃隈
 朝雙 衣袋の裏の代くちたは
 琴風

少くもこの
 名く
 舟後

後竹茶子句負外二

五搭立

鋤鱗

此の井筒の
 ありけり
 天の橋立 舟後
 蘭亭記
 曲水の
 系よいかや自れ
 立花見鳥
 此の井筒乃らつとらと解
 沾徳
 料はりく蘭亭日知相よ
 竹筍
 鼻馬も此倉持指あひき
 蓮之
 こころねく月ち茶草教
 徳純
 風を吹く乾の大工季よと
 貞佐
 轉一二番関城揮ハ
 半鱗
 此の仲ハ指ちきら産屋へも

醸

水も汝利あく醸をくより 沾化

醸

蒸るもく 伊根性 繪帷子 知足

醸

とるに人 森つらぬ 蒸す 沾霞

竹松垣何とえおしく 気色ど 沾岳

から豆の川つ 海ま 此も刀 椿子

清くくと我火文字よ 雲移 可圭

草のら草へ 伊豆此湯の 祥 可添

つりくよわか 盛親は所と

今も先旅を此も来く 芋頭 西磧

牛祭うりま ぬこ

ここやうとせんと ゆき 牛一祭 法弁

新持をくく くと 雲此 松巴

新持 巻二

乞詩 求爾

新持 謂不

心乳 塚

乃ら 涙のく 憂の身も世も 沾宇

新持と 一も 少くと 笑ふら 沾山

兄やれと 呼き 養子 旅をらぶ 沾宇

後より 糸引 せらる ことなり 麦 鬱雨

波火と 一火 地こ ころ 色 賀燕

森ぬく 一そ ちも 小 縷よ 雲を あり 柯木

我屋を 後形 垢 出の ぬ 家 只尺

いや ねら くと 咲と 連 翹 飽 ころ 釵梁

津て 乃ん びら ち 此 伊 雲 越 隣笛

分ら ぎと 是を お 手 小 鶏 蹴 合 沾石

心乳 塚

心乳 塚

心乳 塚

詔書に勝之

輝、ワセ来る宮殿ら詔 翠鳳

何ふつけ玉皇川のそとや 毒目

音三同ても於中ありけ 白雲

竹のふい悟気ほろると風仙菴 夏亭

月もゆるさぬ水桶れ鎰 沾枝

お灯篝を麻えぬさけうへ也 赤石

秘事といつても汝参ても 仙王

三 いうれら知れ餘福う交度金 智谷

元日数割れ鼻お多と持 千江

花聲はえそとき癒あやふ 立志

枝殿の町花

ら月あり

縁福人花

ら月あり

ういハハ人

年業もくや柳條をく 文魚

ノ一の小鮒さうへ一むし 文魚

吹玉吹乃海家 人 鬼 晋如

云中ハ云づくとりねど通了標者 湖舟

で川くと肥り露けくくら 倫里

雷は月よりるを打 囉子 風紫

ひちたの灘と肘く腹押 序令

木香はまき指よ白ふ市品色 佳風

気遠ひら又燈根がらる抜 秋意

丸おも右も引れ系番持 和推

ひらさたさ

ひくされ殿之

一カ葉か

大魚の魚を下ける味方 海宇
 三 願は作如所此年おまの 沼洲
 小刀鏡子無仗者家 朝叟
 聖上と八緡ぬせむ村もや 沾徳
 耳へ油の落ふ新入 立志
 胸おこえきハ傍をハ菜と扣く 琴風
 羽織と肩へ寛こうぬふ 蓮之
 衣一き名智と知らは額の裏 沾化
 元夫盛うよごごと 紙屑 松巴
 心と心はふおよふ心は指 徳純

若杖の家 本貫
 聖上と八緡ぬせむ村もや
 耳へ油の落ふ新入
 心と心はふおよふ心は指

顔一く
 作あま
 真と云

一着配るも髪よ合ふ水 安士
 有り目も穢の穴より崩れ 徳守
 後落の音も只二冬交 西橋
 有けれもと際より音は有 沾岳
 坊の多情は焼糸小寄 知豆
 大海へゆもりけり大角力 只尺
 本場の乾きふこもる世も 湖舟
 勘山は天下のハ笠屋所 貞佐
 水の〜〜〜 呂宋人へ 沾山
 ほよぬ袖も用テもよと漕 秋色

笠屋所 大後
 あまのまよ
 ぬれ糸も
 とおをを
 のり糸

樂屋の夕べ
此れ役おと
りふと

苦勞もる本れ嘗く来る魚 魯谷

一セイと受く小者起り 仙里

竿如手柄も是形次乃家 可圭

握ても涙し木物編麩香 青峩

さても借りよる此道で 雨磧

初の夜よ騒者いふり 椿子

門出れある鄰 新 巖雨

花よ言ひ吟地よ花 祚 晉如

名 一鞍ふ之人 眠不寅卯月 佳風

漆園先生 莊子 一鞍ふ之人 眠不寅卯月 沾枝

家久しくお
より新を
所々似合し

女房小あて見り形彫 半鱗

下機れ足ふ声向ふ片思ひ 义魚

矣ふ教隣家遊ふ日斗 臺月

猪の祖父れ糧の香ふこまら 白雲

喧叱の棒とくふ 軋 吟 風葉

本枯れよりかかるとり川白ひ 偏を

笛て出あふれ今もく出あふれ 和推

くりよれ来ら鬼門と怖からき 沾霞

おあらんごら居 働や 文東

天水も谷屋ハ釜ぞく秋の月 序令

下二

括外

銀治の徳を

小坊とが漕とあるは河物 沾洲

菴裏食も訓きくは蓋井通室吉 賀燕

横庭の軒は下ふ徳利 柯木

十人よ一人をほり三のし 千江

まふ餘こときハ漕の日暮里 叙梁

あゝ入く木葉らるは出立早 法竹

かきうつこひ小料限も毛 海宇

うけいさうひ苗ゆ無 莖 面橋

角をぬり仁志 瑞や 沾石

裁くとも存へ押張る舟も舟 漣純

あま古いと流しよ宿次 朝叟

万五れき七の
甲下休出ま
はら女うり
重庭 廊下 掛
かきうり 書と
具名 係 係 合
あり

くまのり
有んのり

くま有んのりくま有ん あり かなとあり 詩と魚詩ととれ
られい 訓ハ三は鳥と心と通い くのりあり 詩と魚詩ととれ
い上のんこの一は 佛とありてこれの 一はありと上下する 甲と書
云しとれ 佛とあり人の 佛とありてこれの 一はありと上下する 甲と書
古きとありとこれ 佛の中とありてこれの 一はありと上下する 甲と書
とれれとありとこれ 佛の中とありてこれの 一はありと上下する 甲と書
わたりぬりぬりともありとあり 古くしてありとありとありとあり
證とありとあり 新くしてありとあり 新くしてありとありとあり
ありとありとありとあり ありとありとありとありとありとありとあり
ありとありとありとありとありとありとありとありとありとありとあり

右

享保六年

辛丑正月廿一日

徳川
徳川

吉田宁白版





